

【聖書箇所】マタイの福音書 15章21～28節

イエスはそこを去ってツロとシドンの地方に退かれた。  
すると見よ。  
その地方のカナン人の女が出て来て、  
「主よ、ダビデの子よ。私をあわれんでください。娘が悪霊につかれて、ひどく苦しんでいます」  
と言って叫び続けた。  
しかし、イエスは彼女に一言もお答えにならなかった。  
弟子たちはみもとに来て、イエスに願った。  
「あの女を去らせてください。後について来て叫んでいます。」  
イエスは答えられた。  
「わたしは、イスラエルの家の失われた羊たち以外のところには、遣わされていません。」  
しかし彼女は来て、イエスの前にひれ伏して言った。  
「主よ、私をお助けください。」  
すると、イエスは答えられた。  
「子どもたちのパンを取り上げて、小犬に投げてやるのは良くないことです。」  
しかし、彼女は言った。  
「主よ、そのとおりです。ただ、小犬でも主人の食卓から落ちるパン屑はいただきます。」  
そのとき、イエスは彼女に答えられた。  
「女の方、あなたの信仰は立派です。あなたが願うとおりにするように。」  
彼女の娘は、すぐに癒やされた。

【要約】

イエスがカナン人の女にとった対応(2分10秒～)

イエスは拒否、女を「子犬」と呼ぶ(“犬”はさげすみの言葉)

イエスが女に求めていたこととは?(3分35秒～)

\_\_3つのポイント

①カナン人であった

- ・カナン人＝汚れた民族、異邦人、神の祝福を受けるに値しない
- ・自分の問題(娘が悪霊に取りつかれている)を解決してもらいたかった  
→イエスは拒否

②「主よ、私をお助け下さい」

- ・まず自分が憐れんでもらう必要があると気付いた  
→2度目の拒否(パンを小犬にあげるのはよくない)

③イエス自身を求める思いに変えられた

- ・イエスの言うパンとは？→ヨハネ6章35節「わたしがいのちのパンです」
- ・女はイエスというパンを求めた  
→娘がいやされた(あなたが願うとおりになるように)

愛伝道師の証し(13分45秒～)

神学校時代のいやしの証し

まとめ(17分00秒～)

- ・イエス様が問われていること  
私が癒すから信じるのですか？
- ・イエス様は命を捧げるほどに私たちを愛していることを、すでに示している  
祈りがすぐに応えられなくてもイエス様の愛に変わりはない  
愛のプロセスの中にあるということ
- ・イエスそのものを求める信仰